

ROTOBO

Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO

2026年(令和8年)2月25日号 No.2016

目次

■ 数字で見るロシアのLNG生産と輸出	1
■ 『ロシアNIS調査月報』2026年3月号のご紹介	9
■ キーパーソン	10
キルギスで事実上のナンバー2更迭／10	
■ トピックス	11
ロシア中銀、6会合連続の利下げ／11	
ロシア、JICAを「好ましからざる団体」に指定／11	
英加豪、ロシアに追加制裁／11	

数字で見るロシアのLNG生産と輸出

はじめに

今号では、ロシアの調査会社Tebiz Group発行「ロシアのLNG市場分析」から、2024年のロシアのLNG(液化天然ガス)の生産・輸出動向を紹介する。ご存知のとおり、ロシアは2022年2月のウクライナ侵攻以降、エネルギー製品の生産や輸出データの公表を制限している。国際機関や各国税関当局が発表するデータとの間に多少の差はあるものの、侵攻の長期化と西側との関係対立がもたらした輸出先の変化など、資料を分析することは、ロシアのLNG部門をよりの確にとらえるヒントになるはずである。

解説

2024年にロシアで生産された液化天然ガス(LNG)は3,467万3,600tとなり、前年から5.4%増加した。ロシアは2009年にサハリン2プロジェクトでのLNGを初めて輸出して以降、2017年に「ヤマルLNG」、2024年には「アークティックLNG2」での出荷をそれぞれ開始し、生産量を飛躍的に増やしてきた。2022年のLNGの生産量は3,300万tを超えて、LNG生産・輸出国として存在感を高めてきた。しかし、2023年は一転して前年比2.4%減と落ち込んだ。それでも2024年には再び増加に転じ、3,400万tを突破して過去最高を記録した。

ロシア最大のLNG生産地域はウラル連邦管区で、そのほか極東連邦管区、北西連邦管区などが上位を占める。生産量の内訳を見ると、全体の6割以上がヤマルLNGとアークティックLNG2の両プロジェクトを抱えるウラル連邦管区で、約3割がサハリン2プロジェクトの所在する極東連邦管区となっている。